

ユネスコ・ケースブック

- 1 人間の尊厳と人権
- 2 利益と害

ケースブック・シリーズ 生命倫理コア・カリキュラム、社会人間科学セクター (Social and Human Science Sector)、倫理教育プログラム、ユネスコ (UNESCO、国連教育科学文化機関)

この本は次のように引用されるべきである：ユネスコ、2011年、『人間の尊厳と人権 (利益と害) に関するケースブック』、生命倫理コア・カリキュラム、ケースブック・シリーズ、1 (2)、ユネスコ：パリ、144 (140) ページ

この出版物で表明された見解や意見は筆者らのものであり、必ずしもユネスコの考え方を表すものではない。著作物に含まれる名称 (designations) や資料 (material) の提示方法は、ユネスコ側の、あらゆる国家、領土、都市または地域に関する、およびその当局の法的地位に関する意見、またはその国境または境界に関する意見を、どんなものであれ、意味 (imply, ほのめかす) するものではない。

出版：国連教育科学文化機関、社会人間科学セクター、科学技術倫理部門、倫理教育プログラム、7, place de Fontenoy, 75352 Paris 07-SP, France

デザインと制作：Jeddi Editorial Design

SHS/EST/EEP/2011/PI/1

ISBN 978-92-3-104202-7

UNESCO 2011、All rights reserved、Revised edition

内容一覧：ケース (ブック 1：1～30、ブック 2：1～33)

謝辞

ユネスコ・生命倫理コアカリキュラム・ケースブックシリーズのための人間の尊厳と人権に関するケースブックは、ユネスコ倫理教育諮問専門委員会内の、次のメンバーで構成されるワーキンググループの支援を受けて作成された。

Mr. Amnon CARMI, Israel (Coordinator)

Mr. Ruben APRESSYAN, Russian Federation (COMEST)

Mrs. Nouzha GUESSOUS-IDRISSI, Morocco (IBC)

次の人々によって、本著作に関するさらなる支援が提供された。

Mr. Tee Wee ANG

Ms. Adi HEFETS BITON

Ms. Rachel NISSANHOLTZ

Ms. Meredith GRAY

Ms. Jennifer CHEVINSKY

Mr. Tasman MURRAY

ユネスコ・生命倫理コアカリキュラムは、次のメンバーで構成されるユネスコ倫理教育諮問専門委員会の支援を受けて作成された。

Mr. Ruben APRESSYAN, Russian Federation (COMEST)

Mr. D. BALASUBRAMANIAM, India (TWAS)

Mr. Amnon CARMI, Israel (UNESCO Chair)

Mr. Leonardo DE CASTRO, Philippines (IBC)

Mr. Donald EVANS, New Zealand (IBC)

Mr. Diego GRACIA, Spain (COMEST-IBC)

Mrs. Nouzha GUESSOUS-IDRISSI, Morocco (IBC)

Mr. Henk TEN HAVE, Netherlands (UNESCO)

Mr. John WILLIAMS, Canada (WMA)

このケースブックの出版は、ユネスコのためのイスラエル国立委員会による寛大な経済的支援と、イスラエルのハイファ大学のユネスコ生命倫理学議長 (chair) の研究支援で可能になった。

前書き

ブタペストでの科学に関する1999年世界会議の行動枠組みは、ユネスコと国際科学会議（ICSU）の後援のもと、科学の倫理と責任はすべての科学者の教育とトレーニングの不可欠な部分であり、彼らは科学の基本的倫理原則と責任を尊重し、それらにしっかりと即して行動するように奨励されるべきだと述べている。2003年の第32回のユネスコ全体会議中に、メンバーの国々は、生命倫理教育だけでなくすべての科学のおよび専門職教育において、倫理の教育プログラムを開始し支援する必要性を表明した。こうした声明や、科学的知識と技術をめぐる倫理に関するユネスコ世界委員会によって作成された報告書*倫理教育(The Teaching of Ethics)*(2003年)に呼応して、生命倫理領域におけるメンバー各国の能力の強化と向上のために、ユネスコは2004年から倫理教育プログラム（EEP）を開始した。」

EEPのひとりの活動側面(dimension)は倫理教育諮問専門委員会の設立であり、そのメンバーは COMEST のメンバーと、国際生命倫理会議（IBC）、そしてユネスコ生命倫理議長（chair）、発展途上国のための科学アカデミー（TWAS）、世界医師会（WMA）の諸代表から構成されている。この特別（アドホック）委員会の最初の仕事は、ユネスコ生命倫理コアカリキュラムを作成することで、それは2008年に立ち上げられ、2005年の*生命倫理と人権に関する世界宣言*（以降は宣言）を大学生に紹介するために始動した。

この宣言は、世界のすべての領域の独立した専門家または政府の専門家が参加した、熱心な推敲とコンサルテーション手続きを経て、ユネスコのメンバーの国々のよって合意された一連の生命倫理原則をまとめたものである。

この一組の生命倫理原則が、ひとつの世界的な共通基盤を提供することになる。そしてこの共通基盤は、生命倫理がメンバー各国内に浸透し、強化されることを可能にするであろうし、ユネスコには、これらの原則を実践的な目的のために、促進し、普及し、さらに磨き上げていく権限が与えられているのである。

多くの国の多くの大学で生命倫理教育が導入されていないため、ユネスコ生命倫理コアカリキュラムはそのような教育（teaching）の導入を開始する刺激を与えることができる。さらに、その内容は生命倫理のひとつのモデルや特定の見解を押し付けず、異なる文化的、歴史的、そして宗教的背景を持つ多様な国々からの科学の専門家、政策策定者、そして医療専門職にとって共有されている倫理原則をはっきりと表現している。

あなたの目の前にあるケースブックは、ユネスコ・生命倫理コアカリキュラム・ケースブ

ックシリーズの一部であり、2011年にユネスコによって立ち上げられ、コアカリキュラムと共に、またはその宣言の中の生命倫理原則のひとつを学ぶための独立した教材として、使われるようにデザインされている。ケースブックシリーズは、特に発展途上国での倫理教育 (teaching) の導入を強化することを意図している。このシリーズの広範な普及と使用を促進するために、このケースブックは無料で、冊子体で、またはユネスコのウェブサイトを通してダウンロードで入手可能である。

ユネスコの代表として、ユネスコ倫理教育諮問専門委員会、特に本ワーキング・グループのまとめ役 (コーディネイター) である Amnon Carmi 教授に、そしてこのケースブックの作成に責任を持った本ワーキング・グループの他の諸メンバーにも、世界中の倫理教育を強化するユネスコの仕事への彼らの献身と自発的支援に対して感謝の意を表したい。

Dafna FEINHOLZ

生命倫理部門、部長

科学技術倫理分野

社会人間科学セクター (Social and Human Science Sector)